

気候危機時代の豪雨災害を考える ー川辺川ダムは本当に必要かー

近年、各地で未曾有の豪雨災害が頻発しています。2020年7月熊本豪雨もその一つ。激甚な被害を受けた球磨川流域では50名が亡くなりました。国は被害の実態をまともに検証せぬまま、川辺川ダムなど大型事業を強行しています。

一方、被災者は「球磨川は悪くない」と口を揃えます。被災してなお“母なる球磨川”と共に生きる道を探るには、被害の原因とメカニズムの解明が不可欠です。熊本県では被災者自らが300名以上の証言と2500点以上の映像を収集し、国がやらなかった調査を行ないました。今回、その成果の一端を報告していただきます。

昨夏、グテレス事務総長は「地球沸騰化の時代が到来」と警鐘を鳴らしました。このままでは、豪雨災害は今後も多発します。“気候正義”を掲げ活動する若い世代(Fridays For Future Tokyo)との意見交換を通して、これからの時代に求められる施策や生活者の知恵を考えます。

・日時： 2024年3月3日（日）

14時15分～16時45分（開場14時15分）

・場所： 全水道会館5階 中会議室 （地図は裏面に）

JR水道橋駅東口徒歩2分、都営地下鉄三田線 水道橋駅 A1出口 徒歩1分

・参加費：500円（資料代）

・ゲスト：清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
Fridays For Future Tokyo

森 明香（高知大学）

・主催：ハッ場あしたの会

・問合せ：090-4612-7073 or メール →



◎ハッ場あしたの会 第18回総会のお知らせ

3月3日（日）13時30分～14時（開場13時20分）

全水道会館5階 中会議室（集会と同じ会場です）

上記集会の前に総会を開きます。会員の方、関心のある方はご参加ください。

清流球磨川川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会（手渡す会）

球磨川と流域の暮らしを破壊する川辺川ダム建設反対を掲げ、1993年に発足した、球磨川流域の住民団体。川辺川ダムは2008年に白紙となったが、2020年7月豪雨を契機として復活した。

現在、豊かな多様性を育む球磨川を守る水害対策を探るために豪雨災害の実態解明を深める調査と、行政への働きかけを行なっている。

<https://tewatasukai.com/>

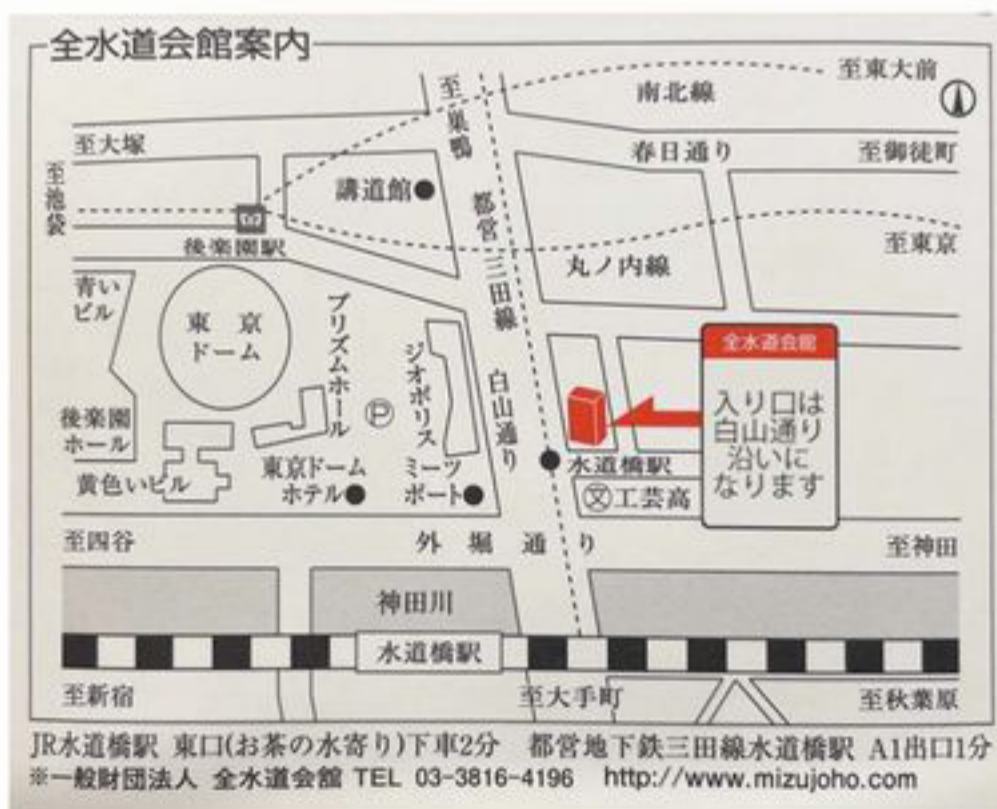
Fridays For Future Tokyo (FFF Tokyo)

Fridays For Futureは、2018年8月にグレタ・トゥーンベリ（当時15歳）が気候変動に対する行動の欠如に抗議するため、1人でスウェーデンの国会前に座り込みをしたことを契機に始まった運動。

多くの若者の共感を呼び世界的な広がりを見せたこの運動は、2019年2月に東京で始まり、以後日本全国各地でも活動が広がっている。

<https://fridaysforfuture.jp/>

お誘いあわせのうえ
ぜひご参加ください！



会場：
全水道会館5階 中会議室
東京都文京区本郷1-4-1
TEL03-3816-4196